平成２４年１２月１３日

各　　位

会　社　名　株式会社日本マイクロニクス
代 表 者 名　代表取締役社長　長谷川　正義
（ＪＡＳＤＡＱ・コード６８７１）
問 合 せ 先　取締役管理本部長　齋藤　太
Ｔ　Ｅ　Ｌ　　０４２２－２１－２６６５

当社の業績に関する一部報道について

本日、日本経済新聞朝刊に当社の業績に関する報道がありましたが、これは、平成２４年１１月２１日開催の当社２０１２年９月期決算説明会の資料に基づいたものと考えられます。同資料は当社ホームページ（http://www.mjc.co.jp）および大阪証券取引所ホームページ上場会社情報（http://www.ose.or.jp/listed_company_info/）に掲載しておりますのでお知らせいたします。

ご参考として同資料を添付いたします。

以　上

Probing the Future

2012年9月期
決算説明会

株式会社日本マイクロニクス

2012年11月21日

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

MICRONICS JAPAN CO.,LTD.

Probing the Future

本日の内容

1. 2012年9月期決算概要
   取締役管理本部長　齋藤　太
2. 2013年9月期業績予想と
   事業構造改革進捗状況
   代表取締役社長　長谷川正義
3. 質疑応答

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

MICRONICS JAPAN CO.,LTD.

決算概要

Probing the Future

(百万円)

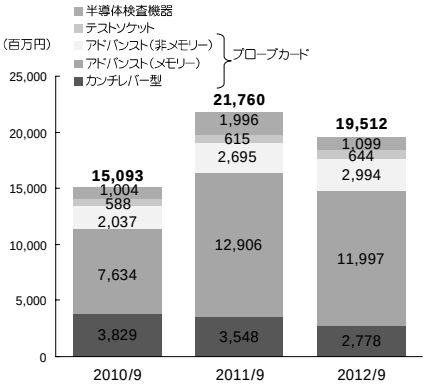
	11/9 連結 前期	12/9 連結 当期	対前年比 増減率	主な要因他	12/9連結 期初予想	12/9連結 5/12修正
売上高	29,049	**23,623**	**△18.7%**	世界的景気後退による、デジタル家電全般の販売不振を受け、売上が大幅に減少。	**30,000**	**24,000**
売上原価	20,938	**18,195**	**－**		**－**	**－**
売上総利益	8,111	**5,428**	**△33.1%**	工場稼働率の低下等が収益性を圧迫。	**－**	**－**
販管費	7,183	**7,791**	**8.5%**	研究開発費32.5億円、サービス費7億円等	**－**	**－**
営業利益	928	**△2,362**	**－**		**700**	**△1,960**
営業外収益	240	**212**	**－**		**－**	**－**
営業外費用	247	**214**	**－**	支払利息0.9億円、為替差損0.3億円等	**－**	**－**
経常利益	921	**△2,364**	**－**		**500**	**△2,050**
特別損益	△210	**△2,455**	**－**	減損損失11億円、希望退職関係10億円等	**－**	**－**
税前純利益	711	**△4,819**	**－**		**－**	**－**
法人税等	3,381	**230**	**－**		**－**	**－**
少数株主利益	167	**△6**	**－**		**－**	**－**
当期純利益	△2,837	**△5,043**	**－**		**300**	**△4,510**

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

セグメント別売上高

Probing the Future

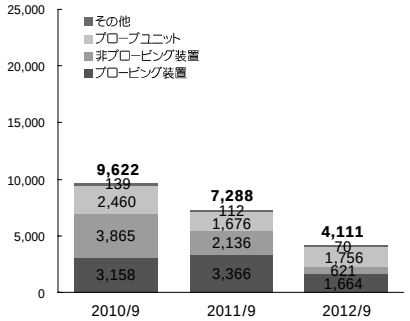
半導体機器事業



	2010/9	2011/9	2012/9
受注	16,402	23,456	17,455
受注残高	2,429	4,125	2,068

- 期後半の需要縮小で、特にメモリー向けアドバンスト プローブカードおよびテスタの売上が伸び悩む
- スマートフォン・タブレット端末等向けロジック(非メモリ) アドバンストプローブカードは失速しつつも増加

FPD機器事業



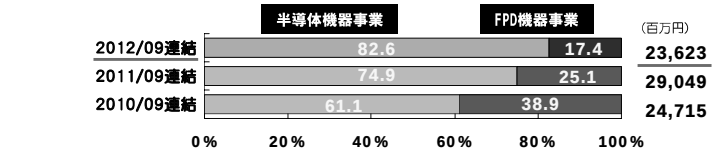
	2010/9	2011/9	2012/9
受注	5,025	5,631	2,872
受注残高	3,849	2,192	953

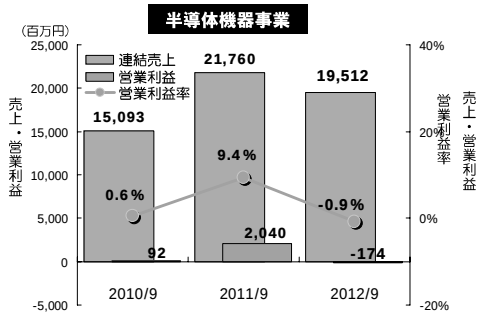
- 装置は設備投資の抑制で受注・売上が大幅に減少
- プローブユニットはパネルの生産調整を受け低水準

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

セグメント別概況

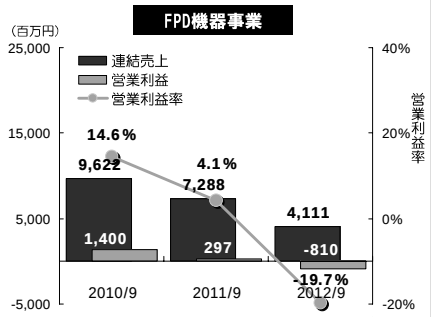
Probing the Future





売上高前年比	44.2%	△10.3%

▶売上減少に加え、製品の高機能化で研究開発費やサービス費が増加し、収益性が大幅に低下



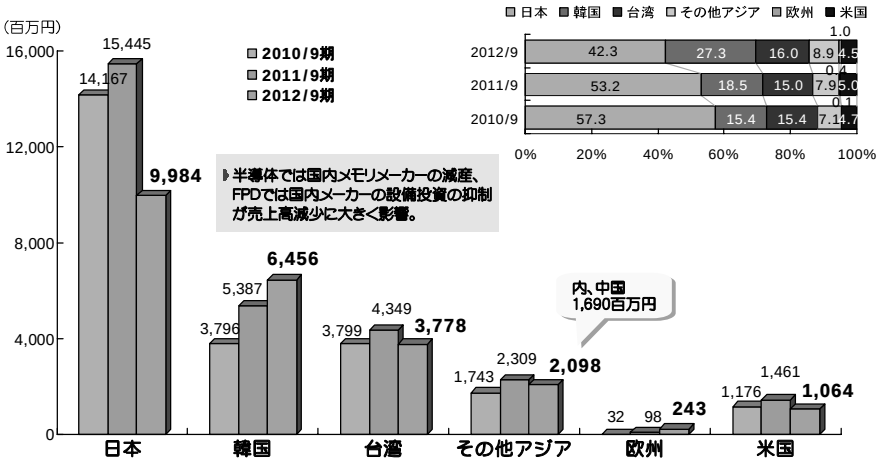
売上高前年比	△24.2%	△43.6%

▶売上が大幅に減少、固定費が吸収できず損失を計上

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

地域別売上高

Probing the Future



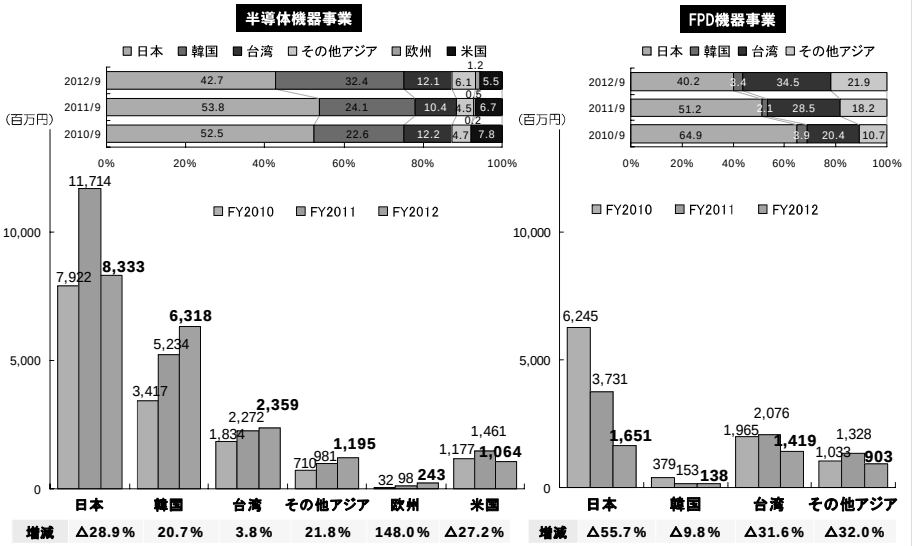
▶半導体では国内メモリメーカーの減産、FPDでは国内メーカーの設備投資の抑制が売上高減少に大きく影響。

	日本	韓国	台湾	その他アジア	欧州	米国
前年比率	△35.4%	19.8%	△13.1%	△9.1%	148.0%	△27.2%
構成比	42.3%	27.3%	16.0%	8.9%	1.0%	4.5%

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

セグメント別 地域別売上高

Probing the Future

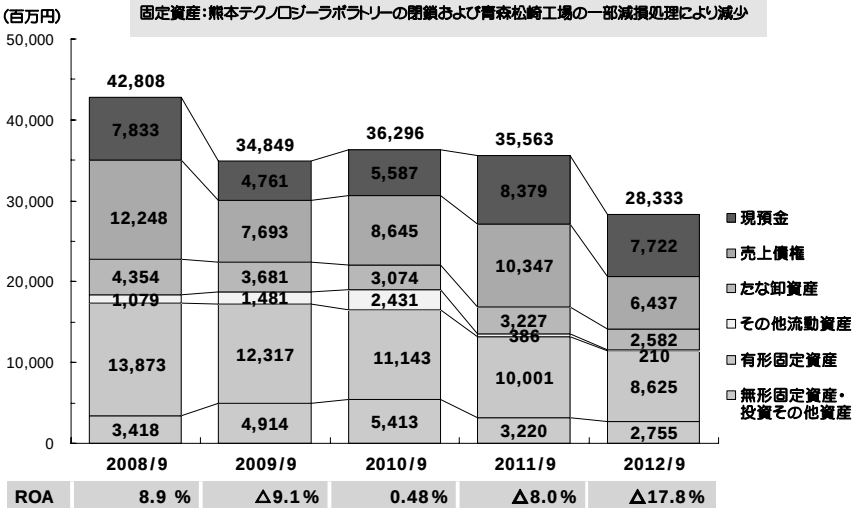


©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

資産

Probing the Future

現預金・売上債権：売上減少により減少
固定資産：熊本テクノロジーラボラトリーの閉鎖および青森松崎工場の一部減損処理により減少



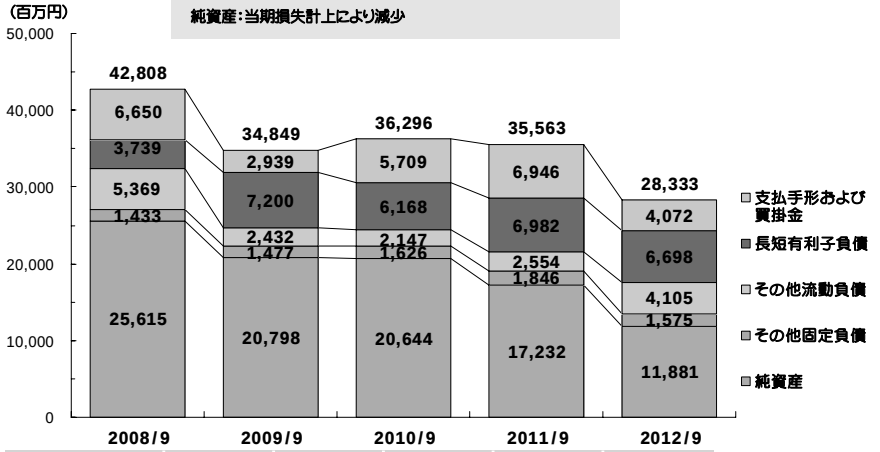
ROA	8.9 %	△9.1%	0.48%	△8.0%	△17.8%

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

負債・純資産

Probing the Future

支払手形および買掛金：売上減少により減少
純資産：当期損失計上により減少

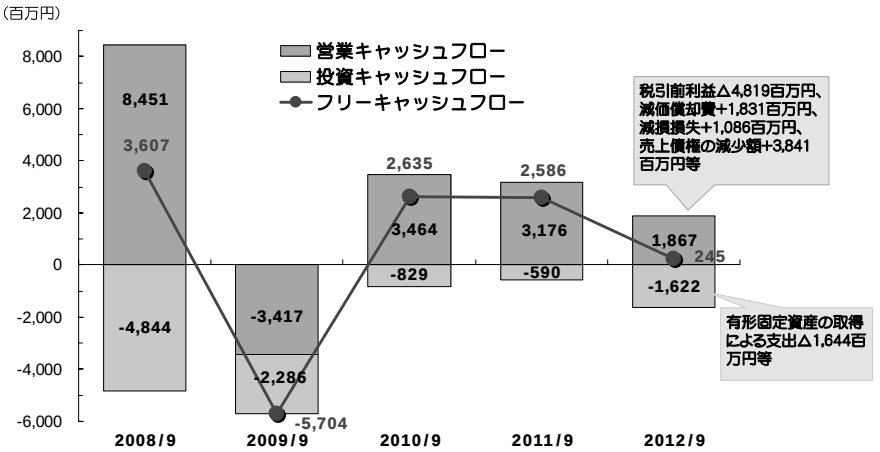


有利子負債依存度	8.7％	20.7％	17.0％	19.6％	23.6％
自己資本比率	57.0％	56.6％	55.5％	46.5％	39.4％

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

キャッシュ・フロー

Probing the Future



©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

本日の内容

1. 2012年9月期決算概要
取締役管理本部長　齋藤　太

2. 2013年9月期業績予想と
事業構造改革進捗状況
代表取締役社長　長谷川正義

3. 質疑応答

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

Probing the Future

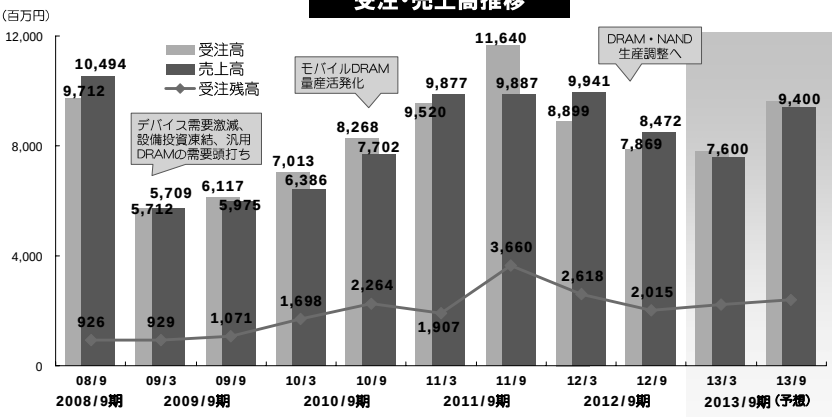
事業環境と業績予想

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved
MICRONICS JAPAN CO.,LTD.

事業環境　プローブカード事業

Probing the Future

受注・売上高推移



- 2012年9月期前半、スマートフォン・タブレットが牽引し、メモリ向け・ロジック向け共にプローブカード需要は堅調だったが、期後半、デジタル製品全般が伸び悩み、特にメモリーの生産調整は顕著で、需要は期末に向け落ち込んだ。
- 2013年9月期は、当面厳しい需要環境が継続し、2013年春以降デバイスの需給バランスの改善により回復すると見ているが、不透明感は引き続く。

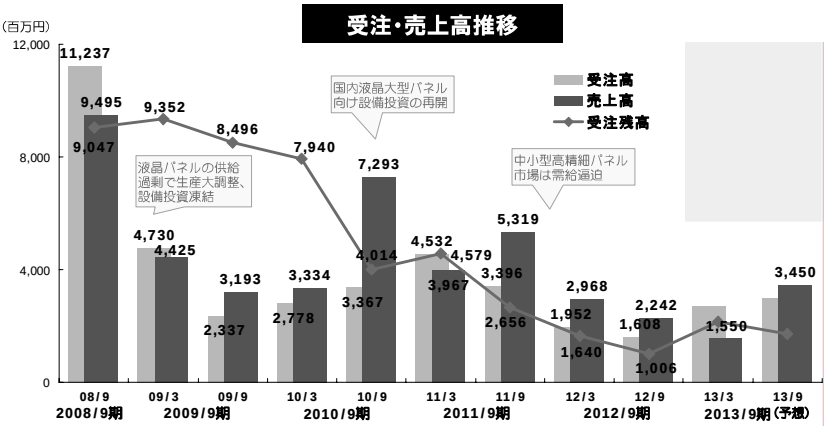
※新セグメント「プローブカード事業」には、プローブカード・テストソケットが含まれます。2012/9期以前のデータは、旧セグメント「半導体機器」から、半導体検査機器を除外し集計しています。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

事業環境　装置事業

Probing the Future

受注・売上高推移



- 2012年9月期は、大型液晶パネルの設備投資抑制が継続し、装置需要は低迷した。半導体装置は、期後半、国内メモリーメーカーの設備投資が凍結され、需要が伸び悩んだ。
- 液晶市場では、中国での中小型パネル投資が2013年夏に開始の計画で、装置需要は若干回復の見通しである。半導体計測装置も春以降設備投資再開の見込み。

※新セグメント「装置事業」には、FPD装置・プローブユニット・半導体検査機器等」が含まれます。2012/9期以前のデータは、旧セグメント「FPD機器」に、半導体検査機器を加算し集計しています。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

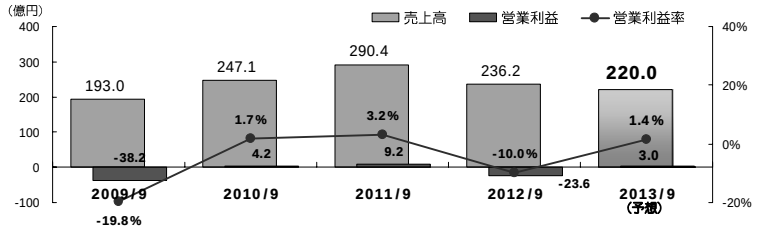
業績予想

Probing the Future

（百万円）

	2012年9月期連結実績			2013年9月期 連結予想			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	前期比増減率
売上高	12,909	10,714	23,623	9,150	12,850	22,000	△6.9%
プローブカード	9,941	8,472	18,413	7,600	9,400	17,000	△7.7%
装置	2,968	2,242	5,210	1,550	3,450	5,000	△4.0%
営業利益	△960	△1,402	△2,362	△300	600	300	―
経常利益	△973	△1,391	△2,364	△350	550	200	―
当期純利益	△1,121	△3,922	△5,043	△400	500	100	―
配当(円)	―	―	0円	―	―	0円	―

※2013年9月期想定レート ： USD 78円／ドル 、KRW 0.069円／ウォン

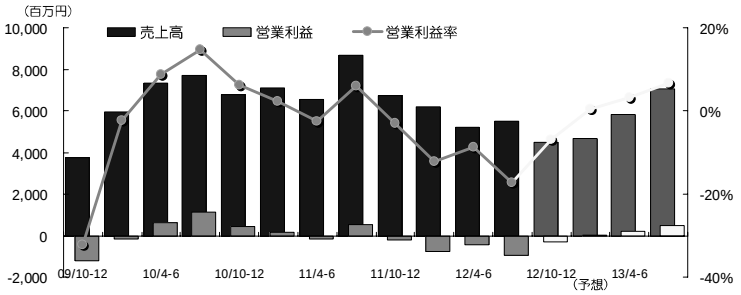


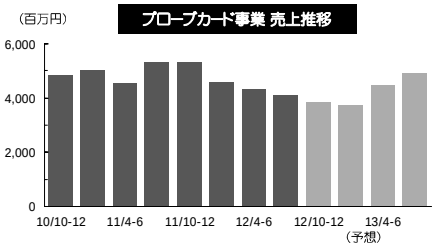
※2012年9月期実績は、新セグメントに合わせた組み換え集計後の数値です。

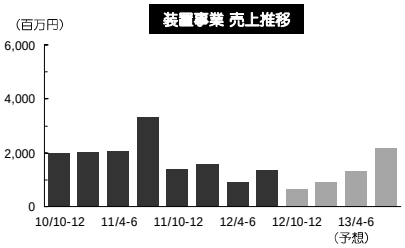
©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

四半期推移の見通し（連結）

Probing the Future





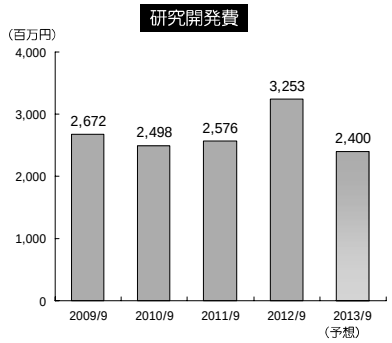


※2012年9月期実績は、新セグメントに合わせた組み換え集計後の数値です。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

研究開発費・設備投資・減価償却費

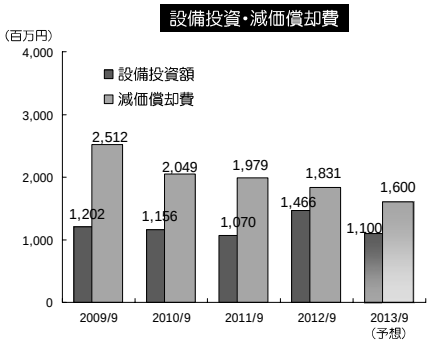
研究開発費



対売上高	13.8％	10.1％	8.9％	13.8％	10.9％

- 2012年9月期は、テスタの開発遅延等発生で費用が膨れ上がった。
- 2013年9月期は、選択と集中の実施の他、開発と費用の進捗状況を頻度を上げ管理することで効率的投資を目指す。優先順位付け・継続是非を早期に決断、費用の最小化を図る。

設備投資・減価償却費



- 2012年9月期は、韓国子会社の新工場建設に伴う費用等が発生。
- 2013年9月期は、投資状況を都度確認の上、不急先送りの方針で実行する。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

事業構造改革の進捗状況

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

事業構造改革 5つの具体的施策

- 生産体制の再構築・人員の適正化
- コア事業の明確化
- グローバル化
- 新組織体制
- 意識改革

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

生産体制の再構築・人員の適正化

7月より事業構造改革の実行に着手。



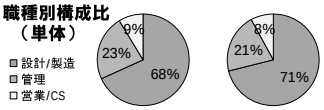
- 熊本TLの大分TLへの統合
- 大分TL・三鷹研究開発センターの本社・青森松崎工場への機能移転
- 人員の適正化・（海外を含めた）配置転換
  単体従業員数　約2割の削減

※TL：テクノロジーラボラトリー

従業員数　（人）

	2012年6月末	2012年10月末	増減
連結	1,461	1,234	△16%
単体	1,113	870	△22%
単体比率	76%	71%	ー

職種別構成比（単体）

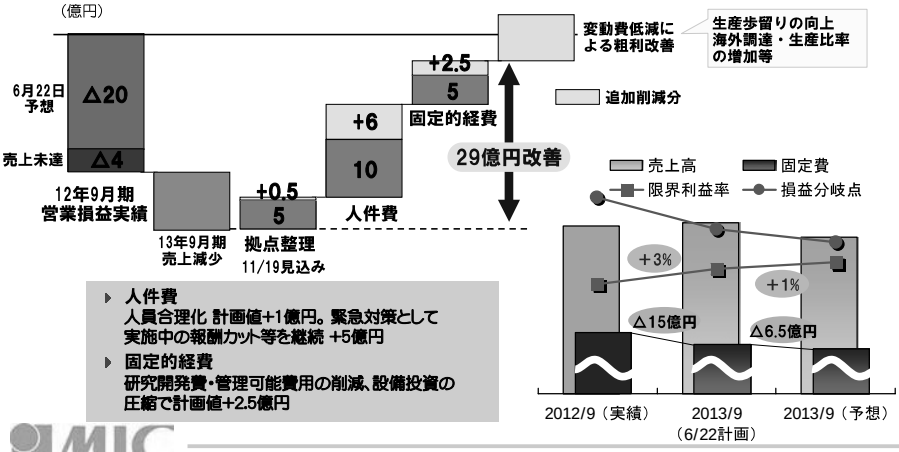


©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

固定的費用削減の状況

2013年度売上高減少の見通しから、固定的費用の削減幅を総額約20億円から29億円に増額。変動費の低減も同時に進める。

固定的費用削減による収益改善計画



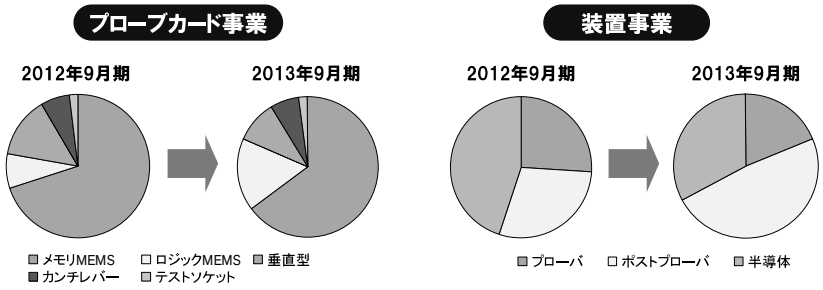
- **人件費**
  人員合理化 計画値+1億円。緊急対策として実施中の報酬カット等を継続 +5億円
- **固定的経費**
  研究開発費・管理可能費用の削減、設備投資の圧縮で計画値+2.5億円

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

コア事業の明確化

コア事業・コア製品強化の視点から、選択と集中による研究開発投資を計画。

研究開発投資の計画



プローブカードでは、ロジックMEMS型アドバンストプローブカードを、装置では、ポストプローバ製品を今後のコア製品として最優先に位置付けた。

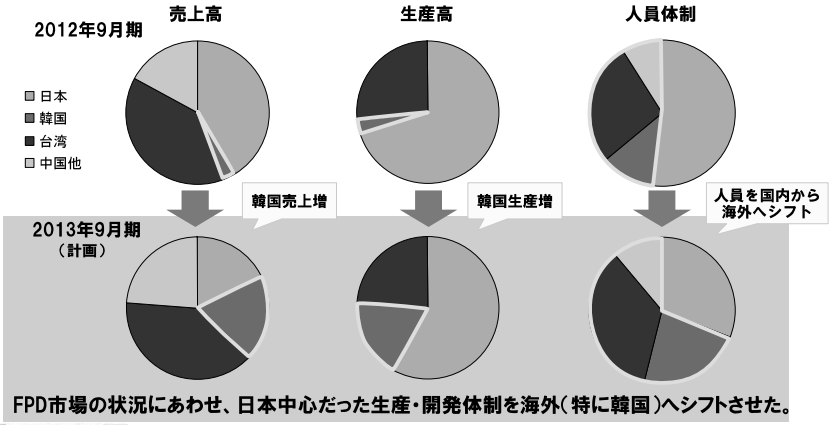
※過去実績は、新セグメントに合わせた組み換えを行っております。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

グローバル化

装置事業では、2013年度において「地産地消」の方針に基づき、設計・生産・営業CSの体制を国内から海外へ大幅にシフト。

装置(FPD)事業

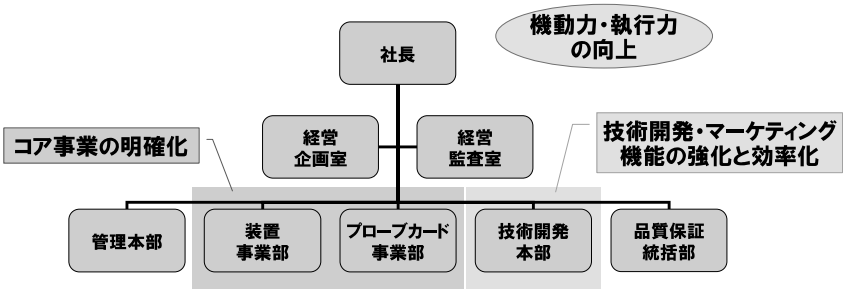


FPD市場の状況にあわせ、日本中心だった生産・開発体制を海外(特に韓国)へシフトさせた。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

新組織体制

10月、新体制の開始。



▶ **事業部門の変更**

旧事業部門	主要製品
半導体機器	プローブカード、テストソケット、半導体検査機器
FPD機器	LCD検査機器、プローブユニット

新事業部門	主要製品
プローブカード	プローブカード、テストソケット
装置	LCD検査機器、プローブユニット、半導体検査機器

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

意識改革

「体感し、習慣付けられる活動」を継続的に導入・実施の予定。

- **「コスト意識」の浸透**

  費用進捗管理の改善として、報告の形式・頻度等の見直し、管理システムの活用促進など開始

- **「経営理念・行動指針」の浸透**

  新人事評価制度の導入、アイデア提案制度の新設等を実施

新人事評価制度：
能力・業務・行動による評価。新たに行動評価を加え、意識を高めることで全社員の価値観統一を図っていく。

アイデア提案制度：
従来の提案活動をより活性化させるための新制度。現場発信のアイデアを積極的に取り込み、経営に反映させることで、社員の問題意識と経営参加意識を高めていく。

【行動指針】
① 原理原則
②「観・感・勘」
③「夢（needs）」「想定」「創意」「熱意」「実行」

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

まとめ

- **半導体市場は暫く停滞する見通し。不透明感は拭えていないが、在庫調整が一段落し、需給バランスが改善することも予想されるため、来春以降の回復を織り込んでいる。テスターも含めて来春以降の需要を確実に取り込む計画である。**
- **FPD市場は液晶パネルの需給バランスに改善が見られるが、基本的に生産・設備投資の抑制は継続すると見ている。装置の需要として、来夏頃開始予定の中国での中小型パネルの投資を織り込んでいる。**
- **事業構造改革を7月から開始し、計画通りに進捗している。しかし、事業環境は6月の想定よりも悪化しており、固定的費用削減の追加実行を決定した。**
  事業構造改革の5つの具体的施策を確実に実行し、黒字化を目指す。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

本日の内容

1. 2012年9月期決算概要
   取締役管理本部長　齋藤　太

2. 2013年9月期業績予想と
   事業構造改革進捗状況
   代表取締役社長　長谷川正義

3. 質疑応答

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

Probing the Future

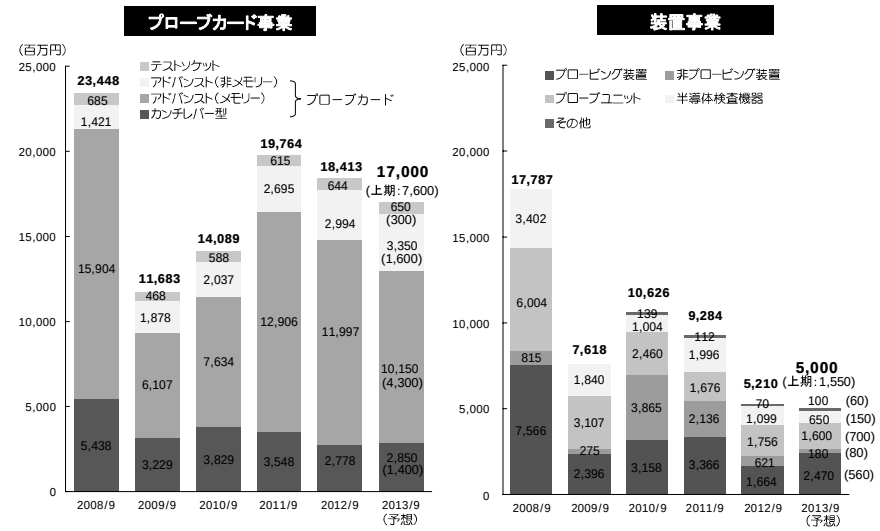
製品別事業概況

（データ集）

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved
MICRONICS JAPAN CO.,LTD.

セグメント別売上高推移見通し

Probing the Future



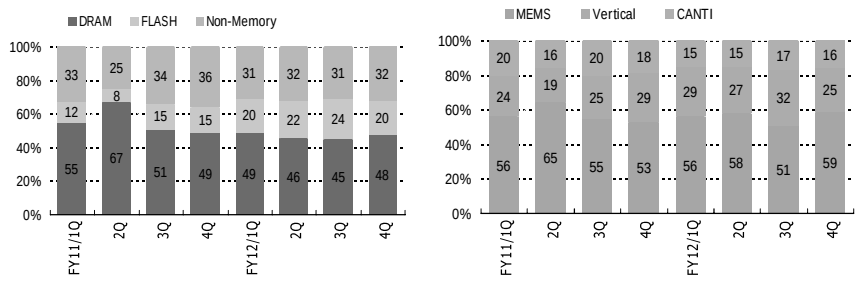
※実績は、新セグメントに合わせた組み換え集計後の数値です。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

プローブカード需要動向

Probing the Future

製品別 売上構成推移 ※連結にて集計しています。



12/9期概況

期前半はスマートフォン、タブレット搭載用モバイルDRAM、NAND、アプリケーションCPU向けにアドバンストプローブカードの需要が底堅く推移したが、期後半はデバイスの需給バランスの悪化やPCおよびデジタル家電全般の販売不振から、プローブカードの需要は全体的に落ち込んだ。特にDRAM・NAND向けアドバンストカードの失速が著しかった。汎用DRAM向けは一年を通し、低迷した。

13/9期見通し

2013年春以降の需給バランス改善による需要回復に期待。スマートフォン・タブレット用デバイス向けが中心となる現状が継続する見通し。

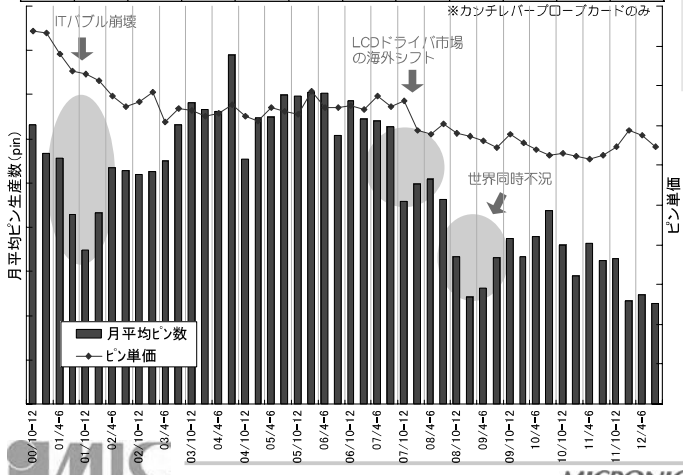
©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

カンチレバー型プローブカード（単体）

Probing the Future

（単位：%）

	02/9期	03/9期	04/9期	05/9期	06/9期	07/9期	08/9期	09/9期	10/9期	11/9期	12/9期
生産数前年比	△15.6	20.7	25.8	△8.9	6.4	△4.1	△25.8	△39.5	30.5	△12.1	△29.2
ピン単価前年比	△12.8	△5.3	△1.5	△1.1	3.0	0.3	△6.2	△5.9	△2.4	△3.9	6.0



12/9期(11/10-12/9)

月平均生産数：
前年同期比 △29.2%

ピン単価：
前年同期比 +6.0 %

これまでの概況と見通し

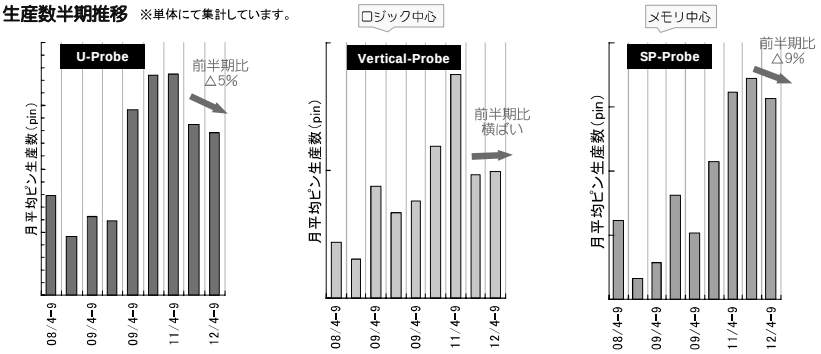
- 市場低調、国内デバイス生産の減少、アドバンストカードへの切替等で、需要は最低水準で推移。
- 高精細LCDドライバ向けで若干需要に戻りはあるが、ほぼ2012年水準で推移すると予想。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

アドバンストプローブカード

Probing the Future

生産数半期推移 ※単体にて集計しています。

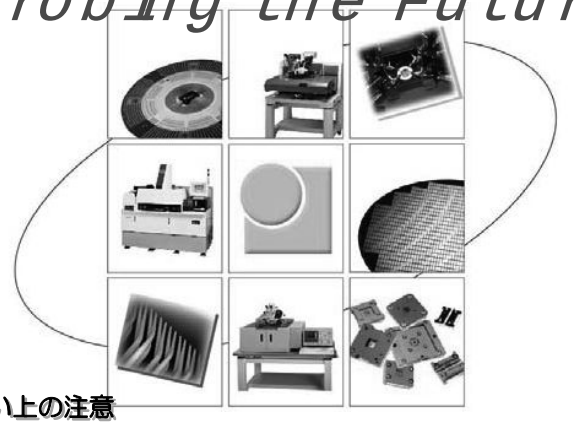


12/9期概況と13/9期見通し

- U-probeは、DRAMの生産調整を大きく受け、需要が大幅に減少したが、NAND向け基板レスカードの出荷は堅調に増加。1枚あたりの平均単価はNAND向けの増加により下落した。2013年春以降はデバイスの需給バランスの回復により、需要が回復する見通しであるが汎用DRAMにおいての戻りはないと見ている。尚、新規顧客での評価が順調に進んでおり、2013年後半での販売を予定。
- Vertical-probeは、主要顧客のアプリケーション・プロセッサの販売の伸び悩みを受け、低調に推移した。2013年9月期は新規顧客の取り込みを早急に進める。
- SP-probeは、NAND向けの需要が夏以降激減している。本格的回復は2013年春以降と見込む。

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

Probing the Future



資料取扱い上の注意

このプレゼンテーションで述べられている内容は、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。見通し等は、市況、競争状況、ならびに半導体・LCD関連業界の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。したがいまして、実際の今後の当社の業績が、本プレゼンテーションにおける記述、情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

MJC

©2012 Micronics Japan Co., Ltd. All Right Reserved

MICRONICS JAPAN CO.,LTD.